【営農情報】

東びわこ農業組合

水稲茎数確保・還元障害対策について

・各地域での田植作業もほぼ終了されているところですが、圃場によっては茎数が 平均より少ないところや、気温の上昇に伴い還元障害が懸念されます。

今後の管理については、以下の点に注意し管理を行いましょう!!

◎茎数が少ない圃場

圃場が深水で水を張りっぱなしの圃場では、根が酸欠状態による生育不良や深水管理による地温の低下により生育抑制が考えられます。

また、本年度は梅雨入りが早く雨の影響で圃場内が深水になったことと、5月中下旬の日照不足が考えられます。

対策について…

深水管理を続けると、地温が低くなり生育が停滞することが気温や日照によっては考えられます。茎数が不足している場合は、出来るだけ浅水管理を行い圃場内の地温を上げることで根や茎を活性化させましょう。

茎数が他の圃場と比べ不足している場合は軽く圃場を干すなど、浅水管理で圃場内の地温を高めてあげましょう!!

◎還元障害の圃場

還元障害は、圃場内でガスがわき、根が酸欠状態になることで根の活力が低下し、 生育不良を招きます。今後気温の上昇に伴い還元障害も考えられますのでしっかり と圃場観察を行いましょう!!

対策について…

圃場を軽く干し、根に酸素を取り入れてあげることで症状は緩和します。 生育が他の圃場と比べ悪いと思われる圃場は一度圃場を軽く干してあげ根の活性化に努めましょう!

ウンカに注意!!

本年度はウンカの飛来が例年にはない早い時期に、西日本を中心に確認されています。トビイロウンカは体長が3~5mm程度の害虫で、水稲の茎から水分や養分を吸い取ることで稲を弱らせます。トビイロウンカの数が増えると被害が拡大し、圃場内でまとまって枯れる『坪枯れ』症状を招きます。

またウンカは3カ月程度かけて世代を繰り返し、収穫期頃に被害が拡大します。これからの注意点としては、株元付近にウンカがいないか確認すると共に、本年度は本田防除剤(7月下旬~8月中旬頃の地上防除)をしっかりと行い、発生量の減少に努めることが重要です。